

# 教科：国語科

## 「こどもボランティア」

### 指導要綱

学習指導要領との結びつき：〔第5学年及び第6学年〕

目標の一つより抜粋

「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことが出来るようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」

⇒登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいな

がら読む力をつける。

## 準備するもの

- 専用のワークシート

## ねらい

- ・誰かの役に立とうとする気持ち＝ボランティア精神の育成
- ・小学生にもできることがあるという可能性の拡大
- ・語り部という存在を知る

## 手順（授業 45 分：実際授業時間 40 分とする）

※その場の状況で時間は調節してください。あくまでこれは目安です。

### 1. こどもに読ませる（3～5 分）

（1～2 名で。読めない漢字があれば、読み方を教える。ルビを振るように言う。）

### 2. 問題を解かせる&回答（15～20 分）

（このあいだ、教室を見回る。最後の問題は残すようにしておく。）

### 3. 最後の問題(☆)について話し合ってもらおう（5～7 分）

（机をひつつける必要があるならそれで。ただ話し合いに重点をおくより、個人で考えた意見を尊重したいため、時間はあまりかけなくてよい。）

### 4. 上記の発表（5～7 分）

（手をあげてもらおう。）

### 5. しめくくり

ここは田村さん(語り部の方)の意思を尊重したいため、下記のようなこと言って欲しい。

- ・こどもが良くて、大人が悪いということではない。
  - ・こんな大人ばかりではない、こんなこどもばかりではない。
  - ・経験することが大切。
  - ・こどものころからこのような体験をできたこどもたちは、とても良い経験ができた。
  - ・こどもは自分の力で乗り越えようとしていた＝生きる力・役に立とうとする気持ち
- これらに沿って、簡単な言葉でしめくくる。

※間違った認識を植えつけないように、これに沿って説明してほしい。

### 注意点

- いくつか読めない漢字をわざとそのままだにしている。たとえば、「避難所」など読めない漢字があるが、そこはできれば覚えてほしいため、どういう意味かを含めて説明してほしい。
- 恥ずかしがっている子がいれば、お手本を見せる。例えば発表において挙手しない場合、まず自分が思ったことを簡単に言ってみるなど、工夫してほしい。
- こどもたちが難しく考えないようにしてほしい。「こどもはえらい」「大人はひどい」というのもこの教材の1つの回答だ。ただ、他にもこういう考えがあるということを⑤で示す。
- 語り部というのは、自分の被災体験を他の人に伝えていくという仕事だ。田村さんは語り部の団体の方。当時、小学生の教諭をしていたそうです。語り部という存在についても同時に教えて欲しい。
- 見回り中に、わからない人がいればヒントを出す。
- 阪神・淡路大震災と避難所について簡単に説明できるようにしてほしい。

小学校の先生をしていた田村さんの話をもとにした話です。

1995年1月17日、**阪神・淡路大震災**が起きました。小学校や中学校はまちの人が逃げる**避難所**となりました。そこでお手伝いをしたこどもたちの話です。

4日目に私は小学校へ行きました。

「先生、来るのそいやんか。」

「私たち1日目と2日目大変やっつてんから。」

と、こどもたちが言いました。

私がない間に、そのこどもたちは学校のお手伝いをしていたそうです。これはそのときの話です。

1日目のことです。そのこどもたちは親といっしょに**避難**してきたそうです。そのとき、学校には先生が3人だけしかいませんでした。

夕方になって、ちくわやパンが届きました。それを分けようと箱に入れていたら、こどもたちがそれを見かけて、

「先生いそがしいやろ、私ら手伝うわ。」

「じゃあやってくれる？」

こどもたちは体育館に食料を持っていきました。そこでこどもたちが配り方に困っていると、待ちきれない大人たちが、

「お姉ちゃん、はよせんかい！私ら待つとんねんから！」

「はい。」

「こつちやあ！」と、あちこちから声が聞こえました。

中には「ほんまにありがどうなあ」と言ってくれる人もいました。

さらに、パンを2人で1枚配っていたのに、3人のおばさんが3枚のパンを持っていきました。

「おばちゃん、2人で1枚やで。」

こどもたちは言いました。

すると、おばちゃんはすぐくこわい目で、にらみました。

また、お手伝いをしているこどもが歩いていいたとき、気付かずに布団の先をふんだらしいです。

「お前な、おれの大事な財産をふんで、くつの型かついたらどないしてくれんねん。」

若いお兄さんが怒って言いました。

やつと終わって、こどもたちはとても疲れて職員室に戻って、それを先生に話したそうです。

「ありがどう、よくがんばったね。明日からは先生たちが、がんばるよ。」

と、先生がこどもたちにやさしい声で言いました。こどもたちは、少しうれしそうでした。

次の日、トイレは水がないので大変なことになっていました。そこで先生がトイレのそ

うじをしようとしたら、

「先生忙しいやろから私らがするわ。」

昨日のこどもたちは、また先生を手伝いたいと思いました。長くつにはきかえて、手ぶくろをして、一生けん命にトイレのそうじをしました。

「大人がやったのを、なんで私らがこんなせなあかんの。」

と言いながらやったそうです。

その様子を見た大人たちの間で話し合いが始まりました。これから学校をどうしていくのか、毎日話し合いました。

「こどもたちに悪いことをしたなあ。」

こどもたちががんばっている様子を見て、大人たちは学校の手伝いを始めたそうです。



☆この文を読んで、みなさんは何を思いましたか。

友だちや家族と話し合って、感想を書いてみましょう。

一、次の漢字を読みましょう。

( **ぼうさい** ) ( **はいきゅう** ) ( **きふ** ) ( )

防災 配給 寄付

二、次のひらがなを漢字にしましょう。

ただし、送り仮名に注意してください。

すくう

・命を ( **救う** ) ( )

なく

・赤ちゃんが ( **泣く** ) ( )

三、に合う言葉に○をつけましょう。

①ぼんやりと ②じろつと

③にやつと ④そつと

四、ぼう線の、先生に話した内容について、文から2つ選んで、内容をまとめて書きましょう。

・配給の仕方で怒られたこと

・おばさんに怒られたこと

・布団を踏んで怒られたこと  
の中から2つ

五、波線の大事な財産とは何のことでしょうか。

( **布団** ) ( )

六、なぜ、それが大事なのか。

震災当時は、持ち出すことも難しく、その人はおそろく布団しか持ち出すことができなかったから。

また、当時は冬で寒かったので、布団は寒さをしのぐための大切なものだったから。

このようなことであれば正解です。

# いづもボランティア

年 組 ( )

小学校の先生をしていた田村さんの話をもとにした話です。  
1995年1月17日、**阪神・淡路大震災**が起きました。小学校や中学校はまちの人が逃げる**避難所**となりました。そこでお手伝いをした子どもたちの話です。

4日目に私は小学校へ行きました。

「先生、来るのおそいやんか。」

「私たち1日目と2日目大変やってんから。」

と、子どもたちが言いました。

私がない間に、その子どもたちは学校のお手伝いをしていたそうです。

これはそのときの話です。

1日目のことです。その子どもたちは親といっしょに避難してきたそうです。そのとき、学校には先生が3人だけしかいませんでした。

夕方になって、ちくわやパンが届きました。それを分けようと箱に入れていたら、子どもたちがそれを見かけて、

「先生いそがしいやろ、私ら手伝わわ。」

「じゃあやってくれる?」

子どもたちは食料をもって体育館にいきました。そこで子どもたちが配り方に困っていると、待ちきれない大人たちが、

「お姉ちゃん、はよせんかい!私ら待つとんねんから!」

「はい。」

「こつちや!」と、あちこちから声が聞こえました。

中には「ほんまにありがとうなあ」と言ってくれる人もいました。

さらに、パンを2人で1枚配っていたのに、3人のおばさんが3枚のパンを持っていきました。

「おばちゃん、2人で1枚やで。」

子どもたちは言いました。

すると、おばちゃんはすぐくこわい目で、にらみました。

また、お手伝いをしている子どもが歩いているとき、気付かずに布団の先をふんだらしいです。

「お前な、おれの大事な財産をふんで、くつの型がついたらどないしてくれんねん。」

若いお兄さんが怒って言いました。

やっと終わって、子どもたちはとても疲れて職員室に戻って、それを先生に話したそうです。

「ありがとう、よくがんばったね。明日からは先生たちが、がんばるよ。」

と、先生が子どもたちにやさしい声で言いました。子どもたちは、少しうれしそうでした。

次の日、トイレは水がないので大変なことになっていました。そこで先生がトイレのそうじをしようとしたら、



「先生忙しいやろから私らがするわ。」

昨日の子どもたちは、また先生を手伝いたいと思いました。長ぐつにはきかえて、手ぶくろをして、一生けん命にトイレのそうじをしました。

「大人がやったのを、なんで私らがこんなせなあかんの。」

と言いながらやったそうです。

その様子を見た大人たちの間で話し合いが始まりました。これから学校をどうしていくのか、毎日話し合いました。

「子どもたちに悪いことをしたなあ。」

子どもたちががんばっている様子を見て、大人たちは学校の手伝いを始めたそうです。

☆この文を読んで、みなさんは何を思いましたか。

友だちや家族と話し合って、感想を書いてみましょう。

一. 次の漢字を読みましょう。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

防災 配給 寄付

二. 次のひらがなを漢字にしましょう。

ただし、送り仮名に注意してください。

すくう

・命を ( )。

なく

・赤ちゃんが ( )。

三. に合う言葉に○をつけましょう。

①ぼんやりと ②じろつと

③にやつと ④そつと

四. ぼう線の、先生に話した内容について、文から2つ選んで、内容をまとめて書きましょう。

五. 波線の大事な財産とは何のことでしょうか。

六. なぜ、それが大事なのですか。

